

平成29年度 地域発元気づくり支援金事業総括書

事業名	平瀬城跡の整備・保存活動事業
事業主体 (連絡先)	平瀬城跡一口城主会 (0263-35-9297)
事業区分	⑤環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	644,112円 (うち支援金: 429,000円)

事業内容

平瀬城跡は、平成26年3月5日に松本市の「特別史跡」に指定されたのを契機に、整備・保存活動のための平瀬城跡一口城主会を立ち上げ、活動を開始しました。

これまでに、登山道の整備・曲輪の雑木伐採・本城頂上の雑木(支障木)の伐採と草刈を実施しましたが、29年度は

- ・本城頂上部東側の赤松枯損木の伐倒処理事業
- ・本城頂上部西側の支障木伐採整理事業
- ・平瀬城跡の入口表示看板(2か所)、駐車場案内看板、南支城入口表示看板の設置事業と、従来通り、一口城主による登山道の整備、曲輪と本城頂上部の草刈などを実施しました。



【赤松枯損木伐倒処理】

【目標・ねらい】

- ① 枯松倒壊による危険防止
- ② 景観・眺望の確保
- ③ 来城者への便宜向上と、城跡のPR

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 支援金を活用して、素人では危険で対応が難しい頂上部の枯松57本と支障木35本を伐採したことで、来城者の安全確保と、眺望の障害を取り除いたことにより、魅力度が倍増した。
- ② 国道19号沿い2か所に表示看板を設置したことのPR効果は大きく、駐車場に駐車する車が増え、城跡入口に設置した案内箱の資料の補給頻度が増した。
- ③ 一口城主の募集などで、県の地域発元気づくり支援金を使っての事業をしている説明をすることで、信頼度が高まった。

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・平瀬城跡の知名度が上がり、来城者が増えた。
- ・観光スポットとして、宣伝活動に寄与できる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ① 頂上部の赤松は、まだ半分が残っており、枯死するのを待って伐採しなければならない。
- ② 赤松は地権者が植樹したもの、支障木は自然木が大きくなったもので、今後は毎年の草刈で芽が出た時点で刈り取るため、今回のような大規模な伐採とはならない。
- ③ 平瀬城跡を早期に県の史跡に取り付け、それによって、平瀬4町会(平瀬川西、平瀬川東、上平瀬、下田)に山田町会を加えた広域連合での整備・保存活動を目指したい。
- ④ 今後は、ハード面だけではなく、「のろし祭り」などソフト事業にも傾注していきたい。